

新装版

日本甲冑史

[上卷]

弥生時代から室町時代

The History of Japanese Armor

[Volume 1]

From the Yayoi period to Muromachi period

中西立太

Text & Illustrations / Ritta Nakanishi



大日本絵画

新装版

日本甲冑史

[上卷]

弥生時代から室町時代

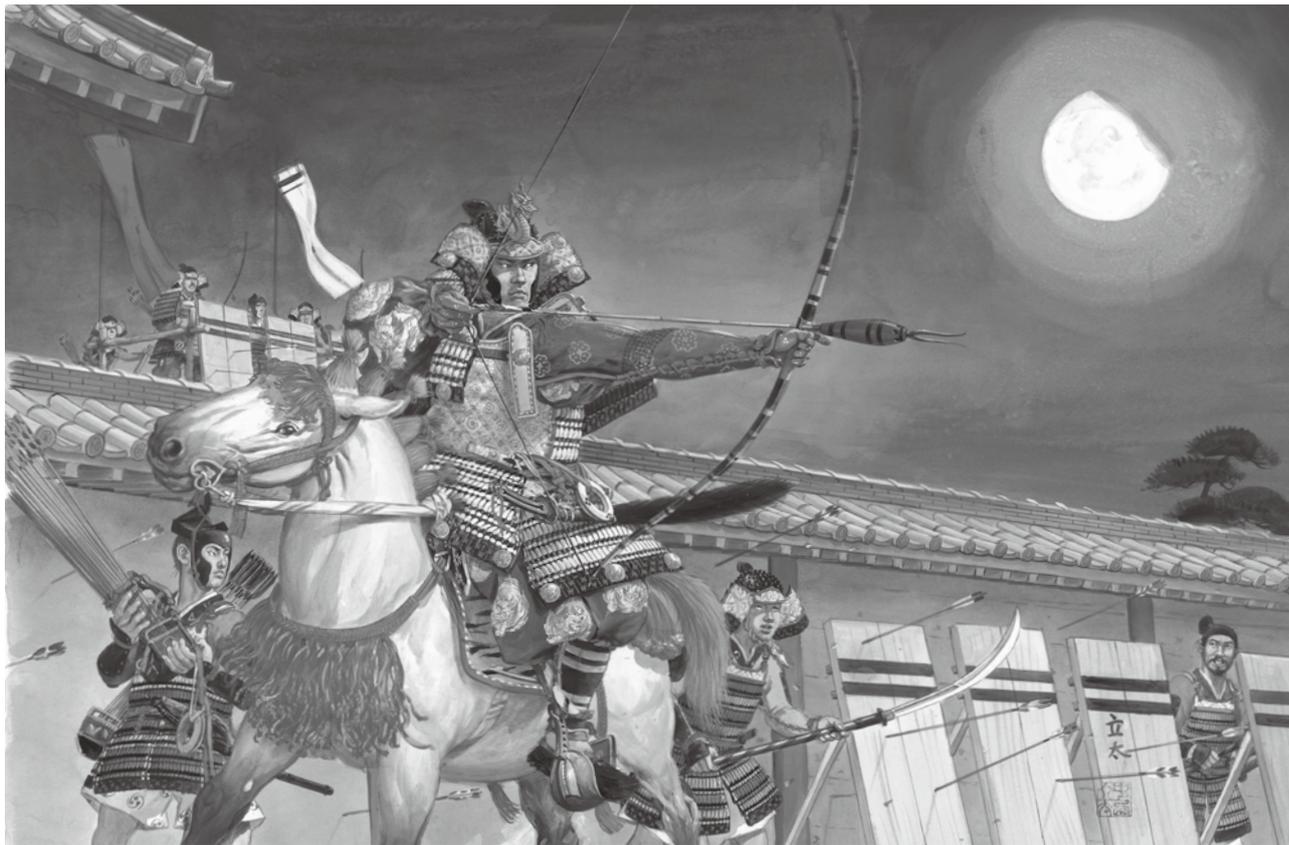
The History of Japanese Armor

[Volume 1]

From the Yayoi period to Muromachi period

中西立太

Text & Illustrations / Ritta Nakanishi



大日本絵画

序章

Introduction

世界の甲冑史

World Armor History

【日本】 Japan

「古墳時代(4～7世紀)」

奈良時代(8世紀)

平安時代(8～12世紀)



周(紀元前10世紀～3世紀)

秦(紀元前3世紀)

漢(紀元前3世紀～3世紀)

隋(6～7世紀)

「唐(7～10世紀)」

【中国】 China



【ヨーロッパ】 Europe



ギリシャ(紀元前6世紀)

ケルト(紀元前1世紀)

ローマ(1世紀)

ノルマン(8～11世紀)

ビザンチン(12世紀)

十字軍(13世紀)

甲冑は世界の各地で発生し、その地域の風土の中でさまざまな変化を遂げている。中国の甲冑は基本的に、鉄片、革片を綴じつ

けた綿襖甲の形が主体であった。

ヨーロッパは各地でさまざまな形式があったが、基本的には古くからのチェーンメイル

(鎖帷子) 式甲冑に金属板を貼るプレートアーマーに変化していった。

日本の甲冑は初期には中国甲冑の影響を受け

Armor can be found throughout history around the world, appearing in many variations in accordance to the cultures and climates of the regions. Chinese armor was chiefly made of bound pieces of iron or leather, and was called Menoukou. European armor varied from region to region, but from ancient times basically consisted of chain mail covered with metal

plates. Early Japanese armor was influenced by Chinese armor, but soon took on character of its own with linked plates of metal and leather, lavishly painted with lacquer and bound together with colorful cords. At the end of the Warring States period, the influence of European armor was manifested by metal torso armor, but the basic form of ancient Japanese armor carried

on to the end of the Tokugawa Shogunate's rule. With little interaction with the outside world, Japan was able to develop an original style of armor. Japan's rich resources and refined production techniques created an unparalleled world of magnificent armor.

鎌倉時代(12～14世紀)



室町時代(14～16世紀)



戦国時代(16～17世紀)



江戸時代(17～19世紀)



宋(10～13世紀)



元(13～14世紀)



明(14～17世紀)



清(17～20世紀)



百年戦争(14世紀)



ゴシック式(15世紀)



マクシミリアン式(16世紀)



トーナメント用(16世紀)



ルネサンス式(16世紀)



胸甲(銃兵)(17世紀)

ていたが、やがて鉄や革の小札を連結して漆を塗り、それらを華やかな糸で威し下げる形式へと発展した。戦国末期にはヨーロッパの影響で

胴のみ金属という形式もあったが、基本的に古い形式で幕末まで続いていた。外国との交流の少なかった日本の甲冑は独自

の発展を遂げ、その材料の豊かさ、工芸技術の洗練などで、他に類を見ない華麗な甲冑世界を作り上げていた。

『日本甲冑史[上巻]弥生時代から室町時代』発刊に寄せて

日本で各地に豪族は生まれ権力闘争が生まれたのは弥生時代頃からだったのだろう。この頃、中国と朝鮮半島から最初期の闘いの用具が輸入され、急速に発達し、闘争を通じて改造が重ねられ次第に日本独自のものに発達していく。

最初期のものは古墳から発見される埴輪、宝剣などから推測するしかなく、これまでまとまってイラスト入りで紹介されることはなかったが、今回『月刊アーチャーモデリング』（小社刊）に連載された『日本甲冑史』が一冊の本になるのは、私たちアニメーションを含む映像産業にとっては大変なメリットである。がんばって埴輪などから推測して簡単なキャラクターを作るしかなかった時代がこれで終わり、古代の軍装の細部が描けると思うと夢が果てしなく広がる思いである。

中西先生は、戦車や飛行機を描いても材質や機能などを詳細に調べて、納得したうでないと筆が進まないといったアプローチが身に付いておられることから、材質、色に到るまで時代考証に現実感があり、多彩なポーズがのちの日本の甲冑に繋がる華麗な発展を思わせる。

東アジアでは、中国を中心に朝鮮でも武は卑しめられ武人は文官に比べて低く見られていたことから南北朝、唐代からはほとんど発達することなく、兵馬俑のような例外を除いて映画等でもほとんど明代のもので間に合わせている。だが、日本では武が尊ばれ独自の死生観と相俟って美術品としての価値を備えたものとして発達し、非常に多くの詳細な資料が残されヨーロッパの甲冑文化と並んで欧米の博物館等にも日本の甲冑が数多く保存されている。

しかし埴輪以外に現物が残らなかった上代の戦闘用具は想像するしかなかっただけに、その発達史は極めて貴重である。中西先生の偉業に賛辞を贈りたい。

大塚康生（アニメーター）
Yasuo Ootsuka (Animator)

编者から：

上掲の一文は本書の原書となる2008年刊行の『日本甲冑史[上巻]』に寄せられた大塚康生氏の推薦文で、クリエイターという立場から見た貴重な言である。

大塚氏は1931年7月、島根県に生まれ、山口県で少年期を過ごした。旧制中学を卒業後、県庁職員を経て上京。厚生省職員となるも草創期のアニメーションの世界に身を投じ、東映動画、Aプロダクション（現シンエイ動画）のほかで、原画アニメーター、作画監督、演出と幅広い分野で活躍し、業界を牽引した。幼少期から培ってきたメカニズムへの観察眼をアニメーションに持ち込んだことも有名で、実在の車や拳銃などを作中に登場させ、見事にアニメ世界でうごかしたことが高い評価を得ている。

2002年、文化庁長官表彰授与。2019年第42回日本アカデミー協会特別賞授与。
2021年3月没。

その昔、少年雑誌華やかなりし頃、私には三大巨匠がいました。一人は私の師匠の小松崎茂、そして中西立太、高荷義之両先生です。小松崎先生は色彩の艶やかさと派手な構図と独特なサインで、私は無論、ほかの少年たちにも一番人気でした。しかし私は考証にこだわり、よりリアルな絵柄の中西、高荷両先生の口絵も大好きでした。

プラモデルが各種多数発売されるようになると、雑誌でもいろいろな兵器の図解記事が多くなり、月刊誌『少年』に「名画プラモ教室」を発表されたのが中西先生でした。航空機が主でしたが、撃墜王の塗装マーキングをはじめ、B-17の球形銃座、ドイツ軍の対空機関砲等々、さまざまな情報がカラーで図解されており、イラストやプラモ作りに夢中だった私の旺盛な研究心を満たしていました。他誌にも陸海空と図解シリーズを展開されましたがどれもすばらしいイラスト解説記事で、それらすべてをスクラップし、今日の私のミリタリー解説記事のバイブルとさせていただいております次第です。

またミリタリー界ではドイツ軍が圧倒的な人気で、日本軍はカッコ悪いとされ、雑誌でもドイツ軍記事が多かったのですが、中西先生は進んで日本軍を研究、『月刊ホビージャパン』で「日本の軍装」を連載、これがのちに一冊になると世界中のミリタリーコレクターの日本軍研究のバイブルとなったのです。

この頃から中西先生は「信ちゃん、日本人は日本の歴史をやらなくちゃいけない、それも分かりやすく知ってもらうには僕らが描いて解説するのが一番なんだ」と歴史復元画にも意欲を燃やされ、雑多で面倒でこれまで誰もやらなかった幕末～明治の軍装を描き、さらにヒートアップ！ この度の『日本甲冑史』となったのですが、その精力的な活躍には恐れ入ります。日本の甲冑の資料はこれまで、武将の肖像や博物館蔵などの展示写真、研究家の描いた線画しかありませんでしたが、カラーで描かれた着姿の武将たちは、ゲーム『信長の野望』やTV『風林火山』などで歴史物に関心を持つようになった人たちの良きバイブルとなることでしょう。

上田 信（イラストレーター）
Shin Ueda (Illustrator)

编者から：

上掲の一文も2008年刊行の『日本甲冑史[上巻]』に寄せられたもので、現在も第1線で活躍する上田信氏によるもの。

上田氏は1949年、青森県生まれ。中学卒業と同時に上京し、小松崎茂の最後の内弟子として修行したのち、モデルガンメーカー勤務を経てイラストレーターとして独立。1969年手がけたタミヤ1/100「ミニジェット機シリーズ」のほか、バンダイ（現BANDAI SPIRITS）、青島文化教材社などのボックスアートを担当。

陸海空全てに精通しているが、そのなかでもとくに陸戦兵器と軍装に造詣が深く、著作も多数。

目次 Contents

序章 世界の甲冑史 ————— 2 Introduction World Armor History	12: 平安期の甲冑 (5) [平安時代 (8 ~ 12世紀)] ————— 50 Armor of the Heian period (5) [Heian period (8th ~ 12th Century)]
序文 ————— 4 Foreword	13: 平安期の甲冑 (6) [平安時代 (8 ~ 12世紀)] ————— 54 Armor of the Heian period (6) [Heian period (8th ~ 12th Century)]
1: 古代日本・幻の甲冑像 (1) [弥生時代後期 (2 ~ 3世紀)] — 6 Ancient Japan, The Elusive Image of Armor (1) [Late Yayoi period (2nd ~ 3rd Century)]	14: 鎌倉期の甲冑 (1) [鎌倉時代 (12 ~ 14世紀)] ————— 58 Armor of the Kamakura period (1) [Kamakura period (12th ~ 14th Century)]
2: 古代日本・幻の甲冑像 (2) [古墳時代初期 (4 ~ 5世紀)] — 10 Ancient Japan, The Elusive Image of Armor (2) [Early Kofun period (4th ~ 5th Century)]	15: 鎌倉期の甲冑 (2) [鎌倉~室町時代初期 (14 ~ 15世紀)] — 62 Armor of the Kamakura period (2) [Kamakura period ~ Early Muromachi period (14th ~ 15th Century)]
3: 古代日本・幻の甲冑像 (3) [古墳時代初期 (4 ~ 5世紀)] — 14 Ancient Japan The Elusive Image of Armor (3) [Early Kofun period (4th ~ 5th Century)]	16: 鎌倉期の甲冑 (3) [鎌倉~室町時代初期 (14 ~ 15世紀)] — 66 Armor of the Kamakura period (3) [Kamakura period ~ Early Muromachi period (14th ~ 15th Century)]
4: 古墳期の甲冑 (1) [挂甲] [古墳時代後期 (6 ~ 7世紀)] — 18 Armor of the Kofun period (1) [Keikou] [Late Kofun period (6th ~ 7th Century)]	17: 馬装の変遷 [古墳~鎌倉時代 (4 ~ 14世紀)] ————— 70 Changes in Horse Equipment [Kofun period ~ Kamakura period (4th ~ 14th Century)]
5: 古墳期の甲冑 (2) [短甲] [古墳時代後期 (6 ~ 7世紀)] — 22 Armor of the Kofun period (2) [Tankou] [Late Kofun period (6th ~ 7th Century)]	18: 南北朝期の甲冑 [鎌倉時代後期~室町時代初期 (14世紀)] — 74 Armor of the Nanbokuchou period [Late Kamakura ~ Early Muromachi period (14th Century)]
6: 奈良期の甲冑 (1) [奈良時代 (8世紀)] ————— 26 Armor of the Nara period (1) [Nara period (8th Century)]	19: 太平記の武者たち [鎌倉時代後期~室町時代初期 (14世紀)] — 78 Warriors of the Taiheiki [Late Kamakura ~ Early Muromachi period (14th Century)]
7: 奈良期の甲冑 (2) [奈良時代 (8世紀)] ————— 30 Armor of the Nara period (2) [Nara period (8th Century)]	20: 足軽の登場 [鎌倉時代後期~室町時代 (14 ~ 16世紀)] — 82 Appearance of the Ashigaru [Late Kamakura period ~ Muromachi period (14th ~ 16th Century)]
8: 平安期の甲冑 (1) [平安時代 (8 ~ 12世紀)] ————— 34 Armor of the Heian period (1) [Heian period (8th ~ 12 Century)]	21: 室町初期の軍装 [室町時代初期 (14世紀)] ————— 86 Battle Dress of the Early Muromachi period [Early Muromachi period (14th Century)]
9: 平安期の甲冑 (2) [平安時代 (8 ~ 12世紀)] ————— 38 Armor of the Heian period (2) [Heian period (8th ~ 12 Century)]	22: 中世山城の合戦 [室町時代 (14 ~ 16世紀)] ————— 90 Medieval Mountain Castle Battle [Muromachi period (14th ~ 16th Century)]
10: 平安期の甲冑 (3) [平安時代 (8 ~ 12世紀)] ————— 42 Armor of the Heian period (3) [Heian period (8th ~ 12th Century)]	あとがき ————— 94 After word
11: 平安期の甲冑 (4) [平安時代 (8 ~ 12世紀)] ————— 46 Armor of the Heian period (4) [Heian period (8th ~ 12th Century)]	

1

古代日本・ 幻の甲冑像(1)

[弥生時代後期(2~3世紀)]
Ancient Japan
The Elusive Image of Armor (1)
[Late Yayoi period (2nd ~ 3rd Century)]

戦闘用甲冑の黎明

The Dawn of Combat Armor

このふたつは推定だが木製甲冑にはさまざまなタイプがあったと思われる
These two examples are conjectural, but it appears that there were many types of wooden armor.

熊本県柳町遺跡出土の甲冑
Armor found at the Yanagimachi excavation site, Kumamoto prefecture

矛を持つ戦士。木製甲冑の下に毛皮などを着用して当たりを柔らかくしたとも考えられる。矛の根元の環に結んだ紐は、穂先が抜けたときに引きつけるためのもの
Warrior holding a pike. Fur worn under the wooden armor is thought to have softened blows. The cord attached to the ring of the pike's collar was used to retrieve the pike after it was thrown.



佐賀県吉野ヶ里遺跡出土の銅剣(弥生後期)
Copper sword found at the Yoshinogari excavation site, Saga prefecture (Late Yayoi period)

木製甲冑の初期の形態(推定)
Early wooden armor (Conjectural)

滋賀県下之郷遺跡出土の木の楯(弥生中期)
Wooden shield discovered at the Shimonogo excavation site, Shiga prefecture (Mid Yayoi period)

岡山県南方遺跡出土の木製甲冑
Wooden armor found at the Minamikata excavation site, Okayama prefecture

敵の攻撃から我が身を守るための甲冑は、古代から世界各地で作られはじめ、それぞれの国の風土や習慣のなかで独自の発達をしていった。ヨーロッパや中近東、中国と蒙古などと近くの国と国境を接している国々は、お互いに影響しあいながら発達したが、四面を海洋で囲まれた日本では、初めこそ中国、朝鮮の影響があったものの、平安期(8~12世紀)以降、いわゆる「国風文化」が確立し、日本独特の形で変化していった。
金属、革、紐、布など使用材料の高級化、製作技術の高度化などにより、ほかの国とはまったく異なった華麗で重厚な甲冑の姿が生まれていったのである。

本書は、こうした日本甲冑の変遷の歴史をさまざまな視点から考察してみた。

The development of armor to protect a combatant from an enemy's attack has progressed all around the world since ancient times, suited to each country's customs and climate. Europe, the Middle East, China, Mongol, and other countries in close proximity to each other influenced each other in the development of armor, but other than some initial influences from China and Korea, Japan developed its own national customs and character as well as a distinctive style of armor, due to its status as an island nation and the period of isolationism during the Heian period (8th to 12th Century). Improvements in materials like metal, leather, cord, and fabric, coupled with advanced production techniques led to the creation of magnificent pieces of armor, unlike those of any other country. This book examines the transitional history of Japanese armor from various viewpoints.

戈。中国系の武器で、本来は長い柄につけて馬上で使うが、馬のない日本では左図のように斧として使用したと思われる
A "Ka" originally a Chinese weapon with a long handle wielded by a rider on horseback. It was used as an axe in Japan, where horses were not available.

佐賀県吉野ヶ里遺跡出土の飾り金具
Decorative metal fittings found at the Yoshinogari excavation site, Saga prefecture

綾形に研ぎわけられた祭祀用大型矛(1世紀)
A large festival-use pike with diagonal patterns created by sharpening (1st Century)

祭祀用甲冑

Festival use Armor



福岡県惣利遺跡出土の木製甲冑
Wooden armor found at the Souri excavation site, Fukuoka prefecture

静岡県伊場遺跡出土の木製甲冑。背中に羽のような板がついている
Wooden armor found at the Iba excavation site in Shizuoka prefecture. Wing-like boards are attached to the back.

佐賀県吉野ヶ里遺跡出土の祭祀用短剣(紀元前1世紀)
A festival-use short sword found at the Yoshinogari excavation site, Saga prefecture (1st Century BC)

人が集団で殺しあう「戦争」はいつごろ発生したのだろうか？
世界各地の民族で考えると、狩猟や採集だけで生活していて、社会もちいさく、余剰生産物も少ない時代にはほとんど発生していない。

しかし農業が発達し、麦や米、とうもろこしなどが大量に収穫されるようになり、手工業が発達して、布や土器などの生産が増えると、それらを奪い合う部族間の抗争がはじまり、やがてそれは本格的に武器を取って戦う「戦争」となる。

日本は縄文時代(1万2000年前～紀元前4世紀)、戦争が少なかったが、稲作が盛んになる弥生時代(紀元前4世紀～3世紀)になるにつれて抗争は激しくなり、次の古墳時代(3世紀後半～6世紀)にははっきりと戦争と呼ばれる大規模な争いが生まれていく。

武器も最初は狩猟具や農業用の道具を転用していたが、やがて人を殺す

When did the concept of "war," the idea of forming groups with the intent to kill other groups, arise? It could not have been during the age of simple hunting and gathering, when mankind was sparsely spread over the Earth and manufactured products were few. With the advent of agriculture and the simple production of clothing, earthenware, and other products, tribes began to settle and conflicts naturally arose over resources and assets, culminating in the development of weapons and finally the concept of "war." There was little conflict during the Jomon Period of Japanese history (12,000 years ago, in the 4th Century BC), but during the Yayoi Period (4th-3rd Century BC), during which rice cultivation was spreading, violent conflict arose, and the following Kofun Period (late 3rd-6th Century BC) saw the introduction of large-scale conflicts that could truly be called "war." Initially, hunting and agricultural tools were used as weapons, but along with the development of bronze and iron were soon transformed into more effective killing tools, such as sharp arrows,

ための大きな矢尻つきの矢、長い矛、鋭い剣へと変化し、青銅器、鉄器の登場と共にさらに有効な武器となっていた。

同時に、これらの武器から身を守るための「甲冑」も発達していった。

初めは毛皮や厚い刺子の衣服のような簡単な防衛衣のようなものであったが、やがてそれに厚い革片や板を縫いつけるようになり、それが次第に鉄片へと変化していき、最後に漆で固めた革片や鉄片をつづり合わせた甲冑へと進化していったものと考えられる。

しかし最近、日本各地で発見される木製の鎧の遺物から、鉄製の鎧に移行する前、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、長い木製甲冑の時代があったものと考えられるようになった。

発掘された木製甲冑は多くが祭祀用と考えられているが、こうした奉納物が出てくる背景には、実用化された木製甲冑の世界があったものと考えられるのではないだろうか。

swords, and spears. At the same time, armor was developed to protect combatants from these new weapons. Beginning with clothing made of animal pelts and thick leather for simple protection, armor gradually evolved into shields made of leather sewn to boards, and finally to leather hardened with lacquered and applied to iron plate. Recently, however, relics of wooden armor have been discovered all over Japan, leading historians to believe there may have been a long period of wooden armor before the advent of iron armor, between the late Yayoi and and Kofun Periods. Although it is thought that the wooden armor that has been excavated may have been used only for festivals, it is also thought that these pieces might represent actual wooden armor that was put to practical use in combat.

1

古代日本・幻の甲冑像(1)

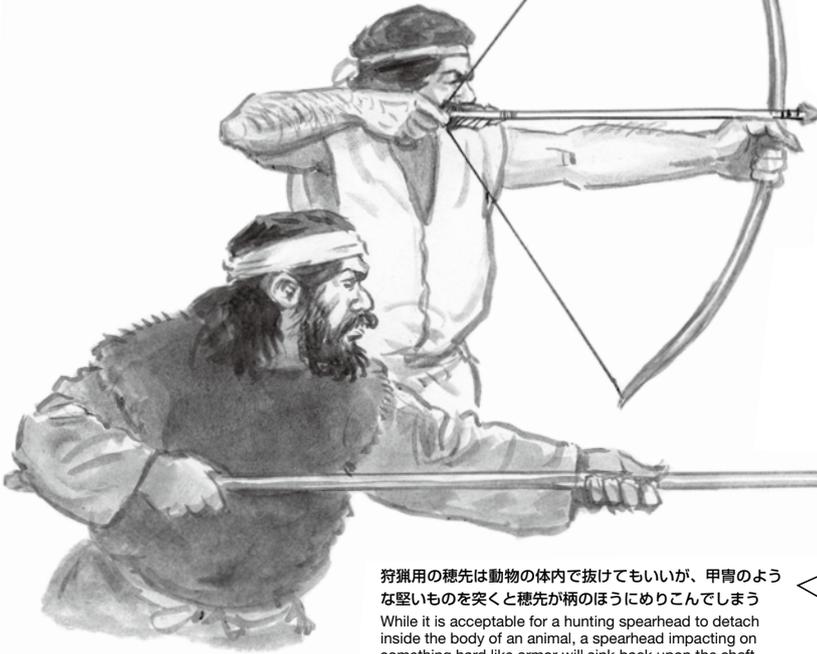
Ancient Japan, The Elusive Image of Armor (1)

狩猟具から武具へ (縄文期～弥生期)

From Hunting Tools to Weapons (Joumon to Yayoi)

縄 文期の狩猟用具は弥生期になると殺人用の武器へと変化していった。これらの攻撃用の武器の変化と共に、いまままで考えられたことのなかった身体防護用の道具、楯や甲冑が開発され、両者は互いに関連しながら発達していった。

The hunting tools of the Joumon period transformed into the killing weapons of the Yayoi period. Defensive tools that had never been considered before, such as shields and armor, were developed in direct relationship to the advent of offensive attack weapons.



弓矢

Bow and arrow

【直弓】 Straight bow
中国、朝鮮系の弓
Chinese and Korean bows

弓矢の部分を強化するための骨製弓矢の
のちに銅、鉄製のものになる
The nock was made of bone for
greater strength. It was later made of
copper and iron.

弦を張らない状態
Unstrung bow

弦を張った状態
Strung bow

槍と矛

Lance and pike

槍は目釘で穂先を固定する
The spearhead is fixed to the
spear by mekugi (rivet-like
devices).

狩猟用の穂先は動物の体内で抜けてもいいが、甲冑のような堅いものを突くと穂先が柄のほうにめりこんでしまう
While it is acceptable for a hunting spearhead to detach inside the body of an animal, a spearhead impacting on something hard like armor will sink back upon the shaft.

初期の矛 Early pike

後期の矛 Late pike

引き止め紐 Stopper cord

こうなっているとストッパーとなって柄にめりこまない
When affixed with a stopper like this, the spearhead will not sink back upon the shaft

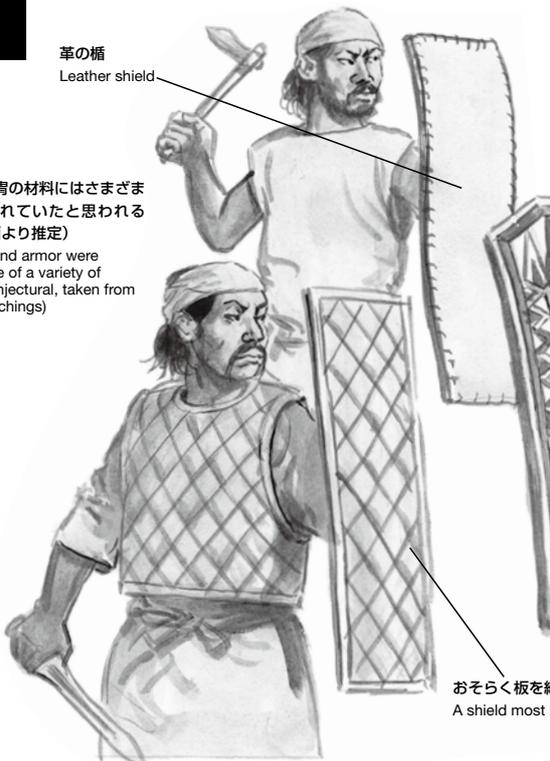
楯

Shield

革の楯
Leather shield

初期の楯や甲冑の材料にはさまざまなものが使われていたと思われる
(弥生の線刻画より推定)

Early shields and armor were probably made of a variety of materials. (Conjectural, taken from Yayoi stone etchings)



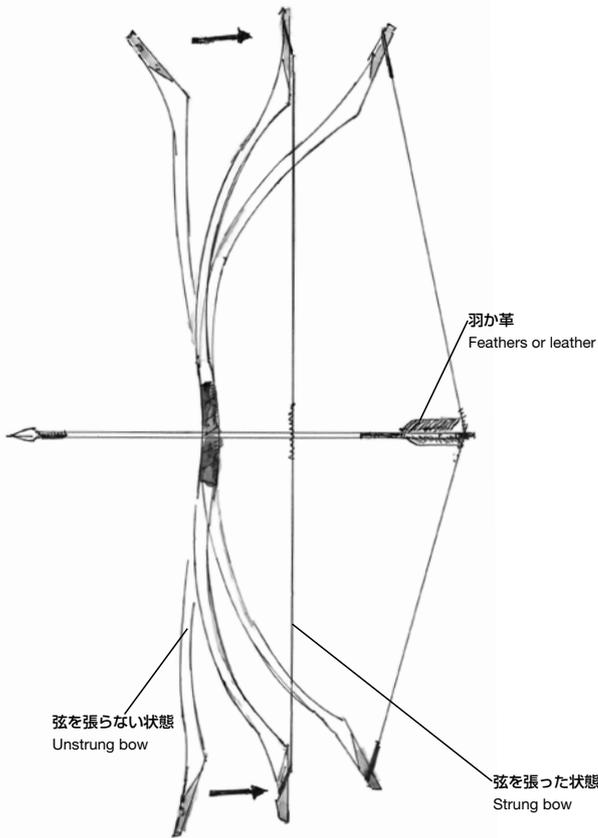
おそらく板を網代に編んだもの
A shield most likely woven of wicker

革楯
Leather shield

鉄楯
Iron shield

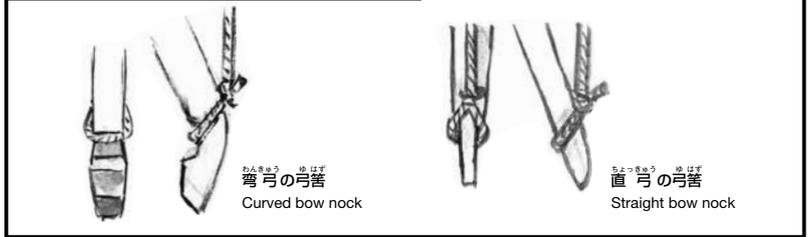
【彎弓】 Curved bow

蒙古の弓の形式
The form of a Mongolian bow



弦を止める方式

Bowstring fixation methods



やじり 鏃
Arrowheads

石鏃

Stone arrowhead

骨鏃

Bone arrowhead

銅鏃・弥生初期 (棒状の軸がつく)
Copper arrowhead, early Yayoi (with cylindrical shaft)

銅鏃・弥生後期
Copper arrowhead, late Yayoi

鉄鏃 (弥生期)
Iron arrowhead (Yayoi period)

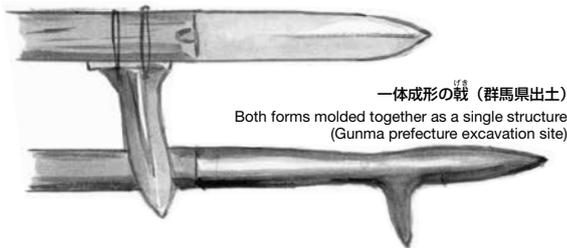
目釘つきの鏃
Arrowhead with mekugi

【野矢 (平根)】 Noya (wide)

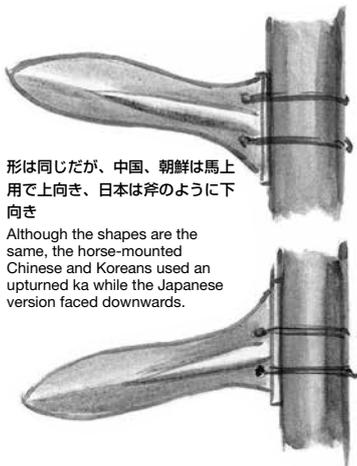
【征矢 (細根)】
Soya (narrow)

げき 戟
Geki

矛と戈を合成した武器
Weapons combining the pike and ka (an axe-like weapon)

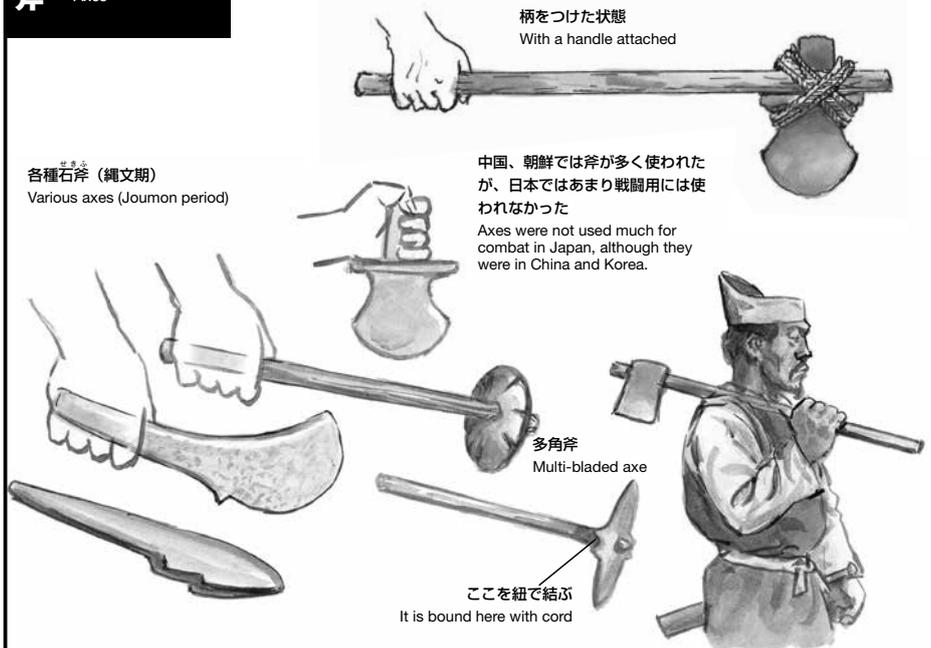


か 戈
Ka (Axe-like weapon)



斧
Axes

各種石斧 (縄文期)
Various axes (Joumon period)



2 古代日本・ 幻の甲冑像 (2)

[古墳時代初期 (4 ~ 5世紀)]
Ancient Japan
The Elusive Image of Armor (2)
[Early Kofun period (4th ~ 5th Century)]

弥生時代に発生したと考えられる木製甲冑の時期を経て、次の古墳時代に入ると銅や鉄の生産が増えた。銅と錫の合金の青銅は、おもに鏃とか矛に使われ、鍛えると強くなる鉄は初め剣に、やがて甲冑へと使用されるようになった。

日本の甲冑史の上では古墳時代の代表的な甲冑は後述する短甲と挂甲とされているが、果たしてそうなのか。古墳の副葬品である写実的な埴輪から、もっと多様な初期甲冑の姿が見えてくるのではないだろうか。

The production of copper and iron was on the rise at the beginning of the Kofun period, following the Yayoi period, which most likely saw the introduction of wooden armor. Copper and tin were combined to make bronze, which was mostly used for lances and pikes, and then for armor. Iron strengthened by forging was used for swords. Historically representative armor of the Kofun period is said to be tankou, a hinged iron cuirass "short armor," and keikou, an early lamellar armor, but this may not necessarily be the case. Haniwa statues, burial artifacts found in kofun, certainly provide an accurate picture of the variation that existed amongst early armor.



打ち出しの
鑄造兜と
思われる
This appears
to be a
combination
hammered
and cast
helmet

背には鞆
(矢入具)を
背負っている
A quiver is worn
on the back

▼埼玉県出土
Excavated in Saitama prefecture

▼奈良県出土
Excavated in Nara prefecture
打ち出し兜
Hammered helmet

打ち出しと
鉄止め
の中間形
と思われる
Hammered and
tacked helmet,
perhaps a
mid-period style

打ち出しと
鉄止めの兜
Helmet of
hammered metal
fixed with
rivet-like tacks

一体成形の兜
One-piece cast
bronze helmet

▶福島県出土
Excavated in
Fukushima
prefecture

長く結ばれたみすらは首と頬の防御に
役立ったと考えられる
The long tied Mizura (part of the
hairstyle) is thought to have been useful
for protecting the neck and cheek area

薬 (中国名、日本名は弓留)。弓のねじれを
防ぐための弦 (資料提供: 島根県教育委員会)
A bowstring used to prevent the bow from
twisting, called Kei in Chinese and yudome
in Japanese.
(Data provided by the Shimane Board of
Education)

彎。島根県姫原西遺跡。全長が長いので普通の長さの矢
を使った。
中国・朝鮮は小型なので短い矢を使う
Do (Crossbow-like bow), Shimane prefecture, Himebara
Nishi ruins. Due to its long length, arrows of normal
length were used. Chinese and Korean types were
smaller, and used shorter arrows.

During the Kofun period (4th-7th century), the shapes of kofun changed from the small circular kofun of the early period, to the gigantic keyhole-shaped kofun in the mid period, to the rectangular kofun at the end of the period. The tanko and keikou armor recovered from late period kofun are generally considered to be representative of Kofun Period armor, but there is some doubt whether this type was prevalent throughout the entire period. The reason for this doubt is that there have been no relics of actual 5th-6th century armor found in the keyhole-shaped kofun of the period's heyday. The following are some reasons why this is. The building of Kofun began at the end of the 3rd century. At the beginning, the subordinate warriors and servants of the deceased master would be buried alive in the kofun with the master's

body, but it is speculated that at the beginning of the 4th century, during the reign of the 11th generation Sujin-tennou (Emperor Sujin), that this practice was discarded, replaced by the entombing of large Haniwa statues, which were biscuit fired clay replicas of houses, people, animals, and other objects. Since these Haniwa are thought to be realistic depictions of the clothing and hairstyles of the day, they provide a very accurate picture of life as it was when they were created. Even among the Haniwa depicted wearing armor, many types of armor are evident, including the Tankou and Keikou types. These illustrations are based on Haniwa statues. Perhaps these varied types of armor actually existed during the 5th and 6th centuries.

4 世紀から7世紀は古墳時代で、初期の小さな円墳から中期の巨大な前方後円墳、末期の小さな方墳へと変化する。

甲冑史の上ではおもに末期の古墳から出土する短甲と挂甲が古墳期甲冑の代表とされているが、果たして古墳期全期をとおしてこの形であったかは疑問なのである。

というのは、全盛期の前方後円墳には、末期のような実物甲冑が副葬されていないので、5~6世紀のこの時期の遺物がまったくないからである。その理由は次のように考えられる。

古墳は3世紀末から造られはじめたが、最初の頃は墓の主人が死ぬと、殉死した家臣や奴婢などが生き埋めにされたが、第11代・垂仁天皇（推定で4

世紀初期）の御代にそれを廃し、その代わりに家や人、動物などを象った素焼きの大型埴輪を埋葬するようになったからである。

これらの埴輪は衣服や髪形などが写実的なので、かなりよく当時の風俗を伝えるものと考えられている。

そのなかでも甲冑を着た武人埴輪には短甲や挂甲の形式を含む多種多様な形式がある。

図はこれらの埴輪を実物様に描いたものだが、恐らく5~6世紀にはこうした多様な甲冑が実在したものと思われる。

ただしこれらは遺物がないので、やはり幻の甲冑群なのである。

各種の埴輪の兜の推定画

Conjectural illustrations of various Haniwa statue helmet types

鉄製甲冑へのさまざまな移行型だと思われる。
Possible evolution leading to iron armor



鎧を装着した武人の埴輪（群馬県上芝道跡出土）
（挂甲の武人、東京国立博物館蔵、出典／国立文化財機構所蔵品統合検索システム [https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/J-36697?locale=ja]）

Clay image of soldier who installed armor
(excavated in Kamishiba excavation site, Gunma Prefecture) (National Museum owning)



▶栃木県芳賀郡出土。
形式的にやや新しい形（全体が金属製とも考えられる）

Tochigi prefecture Haga-gun excavation. A little new formally shape(it is thought that the whole is metallic.)



▶群馬県出土
Excavated in Gunma prefecture



▶群馬県出土
Gunma prefecture excavation



日本甲冑の原点

The Origins of Japanese Armor

日本の甲冑史を考えるうえで注目すべきは、中国の甲冑である。古代日本で指導的な役割を務めたのは、製陶や製鉄などの新技術を持って中国や朝鮮から渡来した人々や、戦乱を逃れた難民集団であったと想像されるので、とうぜん故国中国、朝鮮の兵備には多くの知識と深い関心を持っていたと思われる。

中国では殷、周、春秋、戦国の各時代の甲冑は皮製の皮甲で、金属製の甲冑はなかったとされている。

殷では青銅器の生産が盛んで、刀や矛、戈や戟など数多くの攻撃用兵器が作られたが、青銅製の甲冑はなかった。

青銅はのちに出てくる鉄のように、粘りのある打ち出し加工ができず、甲冑用素材としては不適當だったからである。

When examining the history of Japanese armor, it is important to look at Chinese armor. Immigrants and refugees fleeing the strife of war came to ancient Japan from China and Korea, bringing with them advanced knowledge of pottery and metallurgy. It stands to reason that there was great knowledge and interest in these techniques. During China's three warring states periods (the Yin, Zhou, and Chunqiu dynasties), only leather, not metal, armor was used. Although the production of bronze items such as swords and pikes was common in the Yin dynasty, no armor was made of bronze. This is because bronze does not have the toughness to withstand the hammering process like iron, so it was not an appropriate material to make armor with. Cast bronze helmets, however, have been discovered in small numbers. These helmets were used by the military elite, used only in combat due to their heavy weight. Leather helmets were probably used, but as no relics have been discovered, their shapes remain a mystery.

しかし数は少ないが鋳物製の青銅兜も出土している。おそらく高級武官用と思われるが、重いので戦闘時のみかぶったものであろう。

皮の兜があったと思われるが、有機物であるため出土例がなく形式は不明である。

兵員は漢代になっても頭には詰め物をした頭巾状のものをかぶっている。皮は牛が主だが、鯨や犀の硬い皮も使われた。しかし戦国末に鋭い鉄の刀や矛が登場すると、皮では防御力が弱く、急速に鉄製鎧に移行し、秦代には鉄製鎧が普通となった。

おもしろいのは前頁の弩と同じ檠つきの弩が兵馬俑から出土していることだ。そうであればとうぜん同時期に兵員用として大量にあった皮鎧の情報が日本に伝わっていたことは充分に考えられる。これは埴輪甲冑の形式が、秦と同じ頭からかぶる桶櫛式甲冑であることからわかるのではないだろうか。

皮兜に皮鎧、青銅兜に皮鎧、鉄札鉸止め兜に鉄小札鎧という組み合わせの変化のなかに埴輪甲冑を置いてみると、かなり具体的に初期日本甲冑の姿が見えてくるのではないだろうか。

Even with the advent of the Han dynasty, soldiers were still wearing padded leather hood-shaped helmets.

Leather made from cows was the predominant material, however sharkskin and the skin of rhinos was also used. However, with the appearance of sharp metal swords and pikes towards the end of the warring states period, the weakness of leather armor became evident, and metal armor became standard.

It is interesting to note that the ground-use Kei, developed from the horse mounted use-do as described on the previous page, was brought to Japan, probably at the same time that military-use leather armor was introduced to Japan. This is the same style as the armor seen on Haniwa statues, and it is evident that the head is the same as the wearing the Uchikake style armor. Leather helmets with leather armor, bronze helmets with leather armor, iron tacked helmets with iron scale armor...these combinations and their evolution are evident in the Haniwa statues, giving us a concrete idea of what early Japanese armor must have looked like.

殷代の青銅兜各種

Various styles of Yin Dynasty bronze helmets

安陽県殷墟出土
Anyang County YinXu
excavation



殷代の青銅製胸甲

Yin dynasty bronze chest armor

一例のみの出土物で胸甲は布か皮の上衣に縫いつける形式だが、胸中を帯で締める中国独特のスタイルになっている。この胸甲の形式は仏教系の武神像の鎧に数多くあるので、後世まで使われたと思われる。A unique example of chest armor peculiar to China features armor sewn onto the uniform with a belt of fabric or leather. Only one relic of this type has been found.



兜
寧城南山根出土
Helmet
Ningcheng excavation

胸甲
山東省西庵出土
Chest armor
Shandong Province
excavation



燕下都出土
Xiadu excavation

戦国末の鉄札製の兜

An armor scaled helmet from the end of the warring states period

鉄は戦国末から使用されはじめた
Iron began to be used from the end of the warring states period.

前漢の鉄製甲冑

Iron armor of the early Han dynasty

兵馬俑の鎧の形式

The type of armor as seen on statues of horses and soldiers

【第1類】 The first type

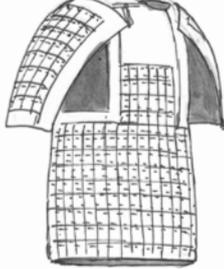
第1類1型

The first type, first style,



2型

second style,



3型

third style,



4型

fourth style



薄い鉄小札を皮は鉄止めしたタイプで、高級武官用と思われる
Thin scale metal armor of the tacked type, thought to belong to elite officers

【第2類 (兵用)】 the second type



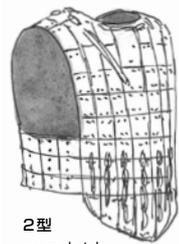
復元模式図

illustration of a restoration



第2類1型

The second type, first style,



2型

second style,



3型

third style,

大きな鉄小札を皮衣に鉄止めたもので、下部は横長の皮に鉄小札を鉄止めし、糸で威し下げて屈伸自由としている。この兵用鎧の形式が埴輪鎧の原点であろう

Armor with large scales fixed with tacks, which is sewn to a long piece of leather to maintain flexibility. This type of armor was probably the inspiration for Haniwa armor.

参考資料：『中国古兵器論叢』（楊泓・著、網干善教・監訳、来村多加史・訳、関西大学出版部刊）



秦代的高级武官

A high-ranking officer of the Qin dynasty

秦の始皇帝の墓【兵馬俑】の兵士像よりの復元だが、頭巾状のものが皮製の兜かもしれない（鎧の形式は第1類3型）

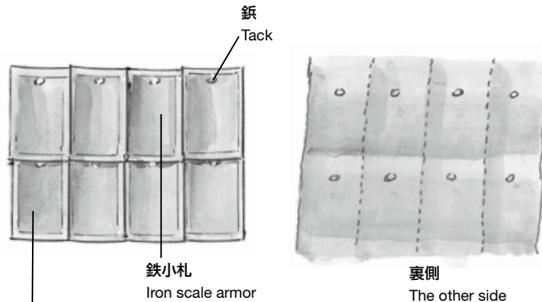
The hooded type may be made of leather, and is similar to those seen on the "Terracotta Warrior" statues of Shin-Hung-Ti, although it is a restoration. (The form of the armor is the first three types)

漢代初期の歩兵

Soldier of the early Han dynasty

胴裏への鉄片の鉄止めの一例（元代）

An example of the tack stops of iron plate chest armor attached to its lining (Yuan dynasty)



鉄片の下部はフリーで揺るぐようになっている

The iron plates of the lower section are free to rattle

3 古代日本・ 幻の甲冑像(3)

[古墳時代初期4~5世紀]

Ancient Japan

The Elusive Image of Armor (3)

[Early Kofun period (4th ~ 5th Century)]



日 本最古の歴史書である『古事記』『日本書紀』の初期の記述である4世紀から6世紀は神話伝説の時代とされ、そのなかに登場する天皇や武将たちが実在したかどうかは不明とされている。

しかし4世紀の天皇と考えられる第12代・景行天皇やその皇子ヤマトタケル、家臣の武内宿禰たけのうちのすくねの伝承は日本各地にあり、粉飾されているがおそらく実在した人物であろうと考えられている。

この頃に成立した大和王朝は九州を基盤に朝鮮との交流があったため、早くから鉄や馬の導入に成功して勢力を増し、日本各地に遠征軍を送ってその勢力拡大に務めていた。その最大勢力範囲は東北・仙台近くに達していたが、実質的支配地域は利根川以南であった。

絵は、噴煙を上げる榛名山の麓、秋風吹く関東の平野で、地元住民には初めて見る奇妙な動物《馬》に乗り、新形式の挂甲や短甲に身を固めた大和軍の将兵に、地域の状況を説明する服属した地元豪族の首長たちである。

まだ巨大な前方後円墳を造っていた彼らの甲冑は、埴輪のような多様な形式があり、なかには顔に古風なウオーペインティングを施している者もいたであろう。

旧形式の甲冑から新形式の甲冑へ移行する5世紀ころの風景である。

The earliest records of written Japanese history are the Kojiki and Nihon Shoki. The initial portions of these writings contain the myths and legends of the 4th to 6th centuries. Therefore, it is uncertain if the Emperors and Generals that appear in the writings actually existed or not. However, the 4th century legends of the 12th Keikou-tennou and his prince Yamato Takeru, as well as Takenouchi-no-sukune are known throughout Japan, so it is thought that these individuals actually did exist.

Around that time, The Yamato dynasty was established, based in Kyushuu. There was much interaction with Korea at this time, and the dynasty's power rapidly increased with the early introduction of iron and horses, with expansion armies spreading to other areas of Japan. The area of expansion extended to the Touhoku region near Sendai, south of Tonegawa.

The picture shows the chieftains of a local clan explaining the area to the Japanese army, on the windy autumn Kantou plain filled with the volcanic smoke from Mt. Haruna. This is the first sight of the strange animal, the horse. Soldiers that settled in the area can be seen in new short-shelled body armor.

The armor worn by the men building the keyhole-shaped Kofun came in many forms, like the Haniwa statues. They also applied warpaint to their faces.

This was a transitional period, when the old style armor was giving way to the new style, during the 5th century.



ISBN978-4-499-23442-9

C0076 ¥3800E



9784499234429



定価 (本体 3,800 円+税)

1920076038006



新装版

日本甲冑史

[上巻]

弥生時代から室町時代

The History of Japanese Armor
[Volume 1]

From the Yayoi period to Muromachi period